

# 決算審査特別委員会

第54号議案・平成24年度白石市一般会計及び特別会計歳入歳出決算の認定について、第55号議案・平成24年度白石市水道事業会計利益の処分及び決算の認定並びに白石市下水道事業会計決算の認定については、定例会2日目（9月5日）の本会議において質疑が行われた後、議長及び監査委員（佐藤英雄）を除く全議員で構成する決算審査特別委員会が設置され、審査が付託されました。

同委員会（委員長・山谷清、副委員長・四竈英夫）は、9月9日に現地調査を行った後、9月9日及び10日の2日間にわたる審査を行い、反対及び賛成の討論ののち、表決の結果、賛成多数で認定しました。

審査の中で議論されたおもな内容は次のとおりです。

## 一般会計

〔質疑〕広告料収入の予算額よりも決算額が非常に大きくなっているが、この中身について説明をお願いしたい。

〔答弁〕この内容についてはホームページに係るバナー広告の広告料である。

金額については、23年度に計上していた広告料が24年9月に収入となったため、増加したものである。

〔質疑〕東日本大震災復興基金、東日本大震災復興交付金

基金の残高が7億7千万円ほど計上されているが、今後、どのような目的に活用していく予定なのか。

〔答弁〕1つは造成宅地活動崩落緊急対策事業交付金を前もって頂戴しており、事業が今後も若干かかるということから、その間、基金に積み立てている。

もう1つは5年間で復興基金を震災復興に充てていく基金である。具体的に言うと、割増商品券の発行事業を来年度も継続していくために基金に積み立てている。

なお、この復興基金については最終的には支出状況・復興の経済状況等を見直しながら、基金の用途を再検討していきたい。

〔質疑〕東日本大震災復興・復興事業として市外への避難者及び市外からの避難者に対する支援とあるが、どのような内容なのか。

〔答弁〕支援内容は対象者50人に対して「広報しろいし」等のお知らせを送付するものである。

〔質疑〕市税等の夜間総合窓口での実績は増加しているのか。また税金滞納への対応はどのように考えているのか。

〔答弁〕夜間総合窓口の実績は、平成24年度は1千630件、収入済額が約1千996万円で23年度と比較すると件数で168件、収納額で約283万円ほど上回っている。

税金滞納への対応として、収納対策の原則である早期着手、早期接触、早期整理を粘り強く続けていくことが大切であると考えている。

## 平成24年度 一般会計・特別会計決算の状況

〔単位：円〕

会計名	歳入決算額	歳出決算額	差引額
一般会計	18,232,718,579	17,254,216,404	978,502,175
特別会計	8,294,537,298	7,828,583,973	465,953,325
国民健康保険	4,733,355,098	4,358,332,723	375,022,375
介護保険	3,194,600,977	3,118,840,548	75,760,429
後期高齢者医療	366,581,223	351,410,702	15,170,521
合計	26,527,255,877	25,082,800,377	1,444,455,500

## 平成24年度 企業会計決算の収支状況

（消費税相当額を含む）〔単位：円〕

会計名	収益的収入	収益的支出
水道事業	930,394,504	900,942,218
下水道事業	811,012,498	797,013,093

〔質疑〕今まで大平、福岡地区の方は本庁舎で市税申告を行っているが、次年度以降も変更はないのか。

〔答弁〕市民の高齢化に伴い申告会場の統一はやはり難しいものがあるということで、福岡、大平地区のみ本庁舎での申告では不公平感が残るため、平成26年の申告から以前のように各地区については地区の公民館で申告を受け付けたいと考えている。

〔質疑〕市民バスの利用者数が減少傾向にある原因は分析しているのか。

〔答弁〕利用者数の減少は運行路線地域における少子化及び定期的に利用する高齢者人口の減少がおもな原因だと思っている。

〔質疑〕鬼小十郎まつりには昨年、9千人来場いただいたが、白石城は賑わうが市内商店街には足を運ばないとの話しも聞くが、課題などを分析しているのか。

〔答弁〕まつり終了後、甲冑を着たエキストラに市内を歩いてもらったり、FM仙台の